

旭化成 売上高1兆4863億円

前年比0・3%減 海外住宅が苦戦 9月中間

旭化成は5日、2025年9月中間連結決算を発表した。ヘルスケア領域の医薬・ライフサイエンス事業などが好調だった一方、住宅事業の海外部門が苦戦するなど、売上高は前年同期比0・3%減の1兆4863億円、営業利益は1・3%減の1074億円、経常利益は2・3%増の1060億円、純利益は10・0%増の662億円だった。

主な事業別では、マテリアル領域は売上高が7・0%減の6378億円、営業利益が33・3%減の310億円。エレクトロニクス事業の感光性絶縁材料「バイメル」など人工知能（AI）用途向け製品が堅調に推移したが、円高や固定費増のほか、石油化学関係の定期修理といった特殊要因が響いた。

住宅領域の売上高は4・2%増の5265億円、営業利益は6・7%増の466億円。金利の高止まりなどで北米の需要が減退しているものの、国内は高付加価値化戦略が奏功、建築請負、不動産開発ともに順調に収益を伸ばした。

ヘルスケア領域の売上高は4・8%増の3068億円、営業利益は20・8%増の401億円。医薬・ライフサイエンス事業は主力製品の販売量が増加、領域の成長をけん引した。

26年3月期の通期業績予想では、売上高を3兆1170億円から3兆800億円に下方修正。営業利益を2150億円から2210億円、経常利益を2160億円から2170億円、純利益を1250億円から1400億円に上方修正した。

（諫山尚人）
400億円上限
自己株式取得へ
来々10月末まで
旭化成は5日、400億円を上限に自己株式を取得する「自社株買い」を行うと発表した。発行済み株式総数の3・31%に当たる4500万株を上限とし、6日から来々10月31日にかけて、取引一任契約に基づく市場買い付けを行う。

5日の決算発表会見で堀江俊保代表取締役兼専務執行委員は「事業ポートフォリオ転換が進み成長路線に回帰、キャッシュフローも十分改善してきた中、株主還元と企業価値を高めていくための自社株買い」と説明した。